

はじめに

(一社)建設コンサルタンツ協会近畿支部が主催する研究発表会は、今回が50回目の節目となります。当研究会は、昭和43年8月に開催された第1回業務研究発表会に端を発し、これまで50年間にわたり、支部会員企業の技術力向上と技術者の能力開発を目的に毎年開催してきました。これまで、昭和57年には特許法に基づき“技術の近畿支部”としての公の技術団体指定を受け、平成4年には本部通常総会の席上において当支部技術部会が「技術の近畿」として本部表彰を受けたこともありました。支部として、会員相互で協力しながら、常に技術に対して真正面から研鑽し続けてきた成果であり、今もそのプロセスにあると言えます。

近年は研究論文の応募件数が増加傾向にあり、今年の発表数は、一般発表60編、ポスター発表52編、学生発表9編の計121編と過去最高を記録しています。今回から始めたポスター発表は、昨年度までのプレゼン発表から趣向を替えた新たな取り組みです。発表者と参加者が互いに納得がいくまで活発な議論をして頂きたいと考えております。また、新たな企画として、3つの自由集会を開催致します。道路研究委員会による「建設コンサルタンツ技術者が発信する政策提言の意義～立ち上がれ関西 新しい道路網整備2050～」、インフラ維持管理研究委員会による「CIMの最先端を学ぼう！～CIMが調査・設計・維持管理を変える～」、男女共同参画委員会による「建コン働き方革命！～これからの多様な働き方を考える～」と、社会ニーズを反映した興味ある内容となっております。さらに、昨年度スタートし大変好評であったCM総選挙のバージョンアップ、それに歓談や交流の場として交流Cafeも引き続き開催します。技術向上に加え、建設コンサルタンツの役割や魅力を多くの人に知って頂ける機会になればと考えています。

特別講演は、午前の部と午後の部の2講演とし、午前の部では国土交通省近畿地方整備局の南後和寛技術調整管理官をお迎えして、ご講演を頂きます。発注者としてのお立場から、建設コンサルタンツを取り巻く昨今の社会経済情勢の変化について、貴重なお話が伺えることと思います。午後の部では、京都大学の藤井聡教授をお迎えし、「超インフラ論～公共投資が日本を救う～」というタイトルでご講演して頂きます。同教授は、「教えて！ニュースライブ 正義のミカタ」などのTVにもご出演しておられる今もとてもホットな研究者です。生のお話を伺える貴重な機会ですので、是非ご来場ください。

結びにあたりまして、論文執筆者、特別講演を快くお引き受け頂きました皆様、審査委員の方々、研究発表会の準備に1年間もの時間を割いて頂いた研究発表委員会の皆様や近畿支部事務局の皆様、自由集会やCM総選挙を企画準備いただいた各委員会の皆様、その他ご協力を頂きました多くの関係者の方々に、心から厚く御礼を申し上げます。

平成29年7月

平成29年度研究発表委員会
委員長 山下 博康